

令和6年8月8日

令和 6 年度 江別市議会 無所属 岩田優太 視察報告書

1 調査年月日

令和 6 年 8 月 6 日 (月) ～ 8 日 (水)

2 調査項目及び調査地

【調査項目】

小野市 能動的な民間企業の経営方式を取り入れた行政経営について

綾部市 地域おこし協力隊（コミュニティナース）について

京都市 南部クリーンセンターのゴミ処理について

【調査地】

兵庫県 小野市（人口：47,006人 20,761世帯）

京都府 綾部市（人口：30,120人 13,758世帯）

京都府 京都市（人口：1,435,781人 743,206世帯）

3 議員名

岩田優太

4 調査報告書

別紙の通り

5 その他

①視察報告書 兵庫県小野市

小野市では地域経営の中で、市役所が、自らの持つ経営資源を最大限に活かして、市民や地域に成果をもたらすために行う活動・営みを「行政経営」として、大変強くその理念を掲げております。

当市における「行政も経営」という基本理念には、「行政経営戦略4つの柱」があります。

①顧客満足度志向：市民＝顧客ととらえ、市役所は市内最大のサービス産業の拠点。

②成果主義：何をやっているのかではなく、何をもたらすか。

③オンリーワン：ここにしかない小野市らしさを追求する行政。

④後手から先手管理：言われてからやるのではなく、言われる前にやる。

以上4点を掲げ、市政運営に積極的に取り組んでいます。

そして、行政戦略の基本理念としては、

- ・理念なくして意識改革なし、意識改革なくして行動なし。
- ・行政も経営「より高度」で「より高品質なサービス」をいかに低コストで提供するか。
- ・ゼロベースの発想でチャレンジ

という基本理念をベースとして、チャレンジングな政策を複数実行してまいりました。

その変革の元になっているのは貴市の蓬萊市長であり、民間企業出身であることから、民間の経営マインドを取り入れてまいりました。在任の期数も7期目ということもあり、長期的なビジョンから小野市の行政経営の抜本的改革に尽力しております。

そんな小野市で最も意識されていることは、市民の意見を市政へ反映し、職員の問題解決能力の醸成と意識改革を行うための『広報広聴の多様な展開とシステムづくり』を行っていることです。

要望苦情等の日常の受け付け、期間を決めた市長への手紙、市長へのメール、ハートフル

サービス意見箱、市政懇話会、団体別座談会、ヤングジェネレーションフォーラム、女性議会、まちの特派員などのすべての意見に原則2週間以内に『文書回答』を行っています。

さらに、それらをデータベースで管理していることから、『情報は市民の財産』という理念が貫かれていると考えます。

職員が作成した『住むなら、やっぱり！おの』というリーフレットもあり、市長の在任7期の間、蓬萊市長の考えがしっかりと職員に浸透していることもよく分かりました。

いわゆる三割自治体である江別市においても今後の行政に経営的感覚を入れていく試みは更に必要になるかと思えます。その上で当市においても依存財源に頼らない自主財源の増やし方とそれ以上に大切な“使い方“が地方においての歳入・歳出のバランスを保つ方法かと思えますので、行政の経営的感覚の底上げで自主財源を増やし健全化していくことが大切であります。

ただ、そこだけに固執して囚われすぎない福祉活動においての市民の満足度の向上や民生費にとのバランスなども含めて考えていくことが重要であると感じました。

岩田

②会派視察報告書 京都府綾部市

地域おこし協力隊（コミュニティナース）について、視察をして参りました。
綾部市につきましては、平成 29 年度に全国の自治体で初めて地域おこし協力隊の一環として「コミュニティナース」を導入しております。

コミュニティナースとは、綾部市においては看護資格を有する人材が市に応募をして、認められれば市の会計年度任用職員として採用され、地域で活動し、住民とのつながりを深めながら、看護師の知識を生かして健康づくりに貢献をしたり、施設や病院ではなく、地域の中で日常的に住民と関わり、健康増進や地域のコミュニティ活動を支援する活動を行っております。

主な活動としましては

(1)コミナスの部屋

最寄りの公会堂や集会場でコミナスがつくる「集まりの場」です。出入り自由で年齢も問いません。参加者とコミナスでワイワイ話しながら体操や健康についてのお話をしていきます。

(2)個別訪問

からだの調子や困りごとがないか、声かけにうかがいます。

(3)地域行事参加や企画

住民のみなさんとつながるきっかけとして参加したり、一緒にイベントを企画したりします。

(4)健康相談

移動購買車同行、公民館での開所、個別訪問など

このような形で地域の人々と双方向にやりとりする中で、「自分の心と体を大事にして、健康に暮らす」ことを一緒に考えていく。そこに住む一人一人がヘルスリテラシーを高め、自分らしく生きていける未来を「共に育てていく」こと。その手助けをする役割が、コミナスにはあります。

*ヘルスリテラシーとは、自分にあった健康情報を探して、わかって（理解し、評価した上で）、使える力

コミュニティナース(以降コミナス)は病院や施設ではなく、地域の中で日常的に住民と関わり、つながりを深めながら、看護師の知識を生かして健康づくりや地域のコミュニティ活動を支援する事が大きな活動目的である事から従来の看護師として働き方とは違った視点に立ち、患者や利用者と接することのできる新しい看護師としての働き方もいえます。

江別市においても全国平均と同様に高齢化も進んでおりますことや、当市の土地が横に長く、エリアによっては農村地域や過疎部のエリアも点在していることから、コミュニティナースのような地域全体の見守りや包括的な看護ケアの行政介入も必要になる場合があると感じました。

岩田

③視察報告書 京都府京都市

京都府の南部クリーンセンター第二工場では環境負荷の少ない持続可能なまちの実現に向けて、様々な施策を積極的に推進しています。

京都市内で発生するごみを、その種類に応じて、適正に処理するため、これらの施設では、公害防止に万全を期すとともに、安全で効率的な運転を行うことにより、環境負荷の低減を図っています。

当施設はごみ焼却施設に加え、バイオガス化施設、選別資源化施設、環境学習施設など複数の機能を併せ持つ複合施設です。

京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」は、ごみ処理施設そのものを活用して整備しており、ごみの処理を通じて、環境問題への理解を深める機会として主に団体等を対象として、施設見学も積極的に受け付けています。

施設見学では焼却炉やごみ発電、バイオガス化施設などの迫力満点の大規模施設を間近に見学することで、生きた教材として最先端の環境技術を学ぶことができます。

また、ごみ減量や、地球温暖化、生物多様性、環境面から見た地域の歴史等幅広い分野を対象として、体験型コンテンツや映像等を中心にしたコンテンツにより、興味や好奇心を持って、楽しみながら学習することが可能な環境になっており、地域に根ざして環境意識の醸成をしていると強く感じました。

クリーンセンターに併設されているバイオガス化施設では、微生物の力によりゴミを分解し、再生可能エネルギーであるバイオガスを発生させることで再生可能エネルギーを発電し、温室効果ガスの削減を図っており、選別資源化施設では、大型ごみなどを破碎して資源となる鉄やアルミニウムを選別回収し効率的に資源を有効活用しています。

江別市におきましては直近ではクリーンセンターの延命措置を行い使用の継続を決断しておりますが、今後のクリーンセンター建て替えなどの際は、いかにエコロジーな施設にしていくかと、建て替え場所においては市民理解を得ながら適切な選定を行うことが必要かと思えます。その中で平行して市民全体での環境意識の向上や変革も必要になります。

環境については学生期での学校での学びやクリーンセンターの施設内においての学びができる環境の構築もしていければと思います。

京都市というオーバーツーリズムによる観光客が多く来る一大インバウンド観光地においても SDGs な取り組みとしてできている現状も鑑みながら、江別市としても他市の動向を今後も注視していただければと思います。

岩田